

感染症等による施設利用基準について

2025年7月吉日

cocorne,cohakuでは感染症等による厚生労働省の「保育所における感染症対策ガイドライン」を参考に利用基準を定めております。感染症の集団発生や流行を防ぎ、子どもたちが一日快適に過ごすことができるようにご配慮とご協力をお願いします。

①発熱の場合

施設利用を控えてほしい場合	保護者へお迎えをお願いする場合
・ 朝から37.5℃を超えた発熱 ・ 食欲がなく朝食、水分がとれていない	・ 37.5℃以上の発熱 ・ 食欲がなく水分がとれない時

②下痢の場合

施設利用を控えてほしい場合	保護者へお迎えをお願いする場合
・ 24時間以内に2回以上の下痢がある ・ 下痢に伴い、いつもより体温が高い	・ 食事や水分をとると下痢をする。 ・ 腹痛を伴う下痢がある ・ 下痢が2回以上ある。

③嘔吐の場合

施設利用を控えてほしい場合	保護者へお迎えをお願いする場合
・ 24時間以内に2回以上嘔吐がある ・ 嘔吐に伴い、いつもより体温が高めである ・ 食欲がなく水分も欲しがらない	・ 咳を伴わない嘔吐がある ・ 2回以上の嘔吐があり、水を飲んでも吐く ・ 吐き気が止まらない ・ お腹を痛がる ・ 下痢を伴う

○ご自宅でも【体温測定】を行ってください。※朝は一般的に熱が下がると言われています。

○ご家族が感染症にかかった場合は本人に症状がなく、元気な場合は利用可能ですが、ご自宅でもいつもと変わりがないかいつも以上に留意していただけるようお願いいたします。

主な感染症と施設利用の目安

感染症名	登園の目安	症状・特徴
麻疹（はしか）	解熱後3日を経過していること	高熱、咳、鼻水、結膜充血、目やに等
インフルエンザ	発症した後5日を経過し、かつ解熱した後3日経過していること	突然の高熱が出現し、3～4日続く。倦怠感、食欲不振、関節痛、筋肉痛等の全身症状、咽頭痛、鼻汁、咳等の気道症状。
風しん（三日はしか）	発しんが消失していること	発しんが顔や頸部に出現し、全身へと拡大。発熱やリンパ節腫脹を伴うことが多く、悪寒、倦怠感、眼球結膜充血を伴うこともある。
水痘（水ぼうそう）	全ての発しんが痂痂（かさぶた）化していること	発しんが顔や頸部に出現し、やがて全身へと拡大する。発しんは、斑点状の赤い丘しんから始まり、水疱（水ぶくれ）となり、最後は痂痂（かさぶた）となる。
流行性耳下腺炎 （おたふくかぜ、ムンプス）	耳下腺、顎下腺、舌下腺の膨張が発現してから5日経過し、かつ全身状態が良好になっていること	発熱と唾液腺（耳下腺・顎下腺・舌下腺）の腫脹・疼痛
結核	医師により感染のおそれがないと認められていること	全身に影響を及ぼす感染症だが、特に肺に病変が生じることが多い。慢性的な発熱（微熱）、咳、疲れやすさ、食欲不振、顔色の悪さ等。
咽頭結膜熱（プール熱）	発熱、充血等の主な症状が消失した後2日を経過していること	高熱、扁桃腺炎、結膜炎
流行性角結膜炎（はやり目）	結膜炎の症状が消失していること	目が充血し、目やにが出る。目に膜が張ることもある。片方の目で発症した後、もう一方の目に感染することがある
百日咳	特有な咳が消失していること又は5日間の適正な抗菌薬による治療が終了していること	特有な咳（コンコンと吹き込んだ後、ヒューという笛を吹くような音を立てて息を吸うもの）が特徴で、連続性・発作性の咳が長期に続く。夜間眠れないほどの咳がみられることや、咳とともに嘔吐することもある。
腸管出血性大腸菌感染症 （O157、O26、O111等）	医師において感染のおそれがないと認められていること	水様下痢便や腹痛、血便
急性出血性結膜炎	医師により感染のおそれがないと認められること	強い目の痛み、目の結膜（白眼の部分）の充血、結膜下出血。また、目やに、角膜の混濁等もみられる。
侵襲性髄膜炎菌感染症 （髄膜炎菌性髄膜炎）	医師において感染のおそれがないと認められていること	発熱、頭痛、嘔吐
溶連菌感染症	抗菌薬の内服後24～48時間を経過していること	扁桃炎、伝染性膿痂しん（とびひ）、中耳炎、肺炎、化膿性関節炎、骨髄炎、髄膜炎等
マイコプラズマ肺炎	発熱や激しい咳が治まっていること	主な症状は咳であり、肺炎を引き起こす。咳、発熱、頭痛等のかぜ症状がゆっくり進行する。特に咳は徐々に激しくなり、数週間に及びこともある。
手足口病	発熱や口腔内の水疱・潰瘍の影響がなく、普段の食事がとれること ※ 発熱や咽頭痛、下痢がみられる場合や食べ物が食べられない場合には利用を控えていただき、全身状態が安定してから利用を再開していただく	口腔粘膜と手足の末端に水疱性発しんが生じる。発熱とどの痛みを伴う水疱（水ぶくれ）が口腔内にでき、唾液が増え、手足の末端、おしり等に水疱が生じる。
伝染性紅斑（りんご病）	全身状態が良いこと	発熱、倦怠感、頭痛、筋肉痛等の軽微な症状がみられ、その後、両側頬部に孤立性淡紅色斑丘しんが現れる
ウイルス性胃腸炎 （ノロウイルス・ロタウイルス感染症）	嘔吐、下痢等の症状が治まり、普段の食事がとれること	嘔吐と下痢が主な症状で、脱水を合併することがある

感染症名	登園の目安	症状・特徴
ヘルパンギーナ	発熱や口腔内の水疱・潰瘍の影響がなく、普段の食事がとれること ※発熱や咽頭痛、下痢がみられる場合や食べ物が食べられない場合には利用を控えていただき、全身状態が安定してから利用を再開していただく	発症初期には、高熱、のどの痛み等の症状がみられ、また、咽頭に赤い粘膜しんがみられ、次に水疱（水ぶくれ）となり、間もなく潰瘍となる。高熱は数日続く。
R S ウイルス感染症	呼吸器症状が消失し、全身状態が良いこと	呼吸器感染症で、乳幼児期に初感染した場合の症状が重く、特に生後6か月未満の乳児では重症な呼吸器症状を生じ、入院管理が必要となる場合も少なくない。
ヒトメタニューモウイルス	呼吸器症状が消失し、全身状態が良いこと	咳、鼻水、発熱などかぜに似た症状で、R S ウイルスと同じ特徴を持っている。乳幼児や高齢者に感染すると気管支炎や肺炎を起こしやすい。
帯状疱疹	すべての発しんが痂皮（かさぶた）化していること	
突発性発しん	解熱し機嫌が良く全身状態が良いこと	3日間程度の高熱の後、解熱するとともに紅斑が出現し、数日で消えてなくなる
新型コロナウイルス感染症	発症した後5日を経過し、かつ、症状が軽快した後1日を経過するまで ※発症から10日を経過するまでは、マスク着用を推奨する	発熱、呼吸器症状、頭痛、倦怠感、消化器症状、鼻汁、味覚異常、臭覚異常等